

オウム対策住民協議会

鳥山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

鳥山がオウム村にならぬように

実行委員長

山田 雅則

昨年十二月十九日、オウム真理教(現アレフ)信者が集団で転入して以来、早いもので半年が過ぎ、世田谷区南鳥山は全国的に「知名度アップ」しました。

GSマンション分譲五階建ての一、二階部と道路反対側のサンサンマンション二棟に現在出家信者が四十七名ほど入居しています。GSマンション一階にある大道場(六十畳、三十畳)は、修行の場として時々セミナー集会が開催されています。五月のゴールデンウィークには二百人近くの在家信者が集合しました。

私たちは鳥山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会を結成し、実行委員会組織で活動を開始しました。全国どこへ行っても追われている教団が、なぜこの鳥山の地に進出したのかと、協議会メンバー共々頭を悩ましています。

松本サリン事件、坂本弁護士事件、地下鉄サリン事件など、人道に許すことのできない凶悪事件をひき起こした殺人集団、カルト教団、「人を殺してもゴキブリを殺すな」こんな教えを松本

智津夫(麻原彰晃)が伝授していたのに、アレフと名を変え「麻原は過去の人」と言っているが、何ら体制は変わっていない。真の宗教とは、あまりにもかけ離れている集団だと思っております。

「現信者よ、早く目を覚まし、故郷へ帰りなさい。今なら間に合う。人生を取り戻してもらいたい。」

若い女の信者が道路の清掃をしているとき、監視当番に来られた年配者が「苦勞様。また明日もお願ひね。」と語りかけ、「貴女は故郷はあるんでしょう? 親も元氣なの?」との問いに、「今は音信不通でわからない」とのこと。「今日は何の日かわかる? 母の日よ。一度でいいから電話をかけてみなさい。親は喜ぶから。」と、いろいろと話され、ジーンとしていたとの事。後日談、親がびっくりして感激され、その方によろしくとの話になったそうです。

今後、勉強会も開催して他地域の教団追出しの成果など、見聞を広めていくつもりです。また、デモ行動、署名運動、資金カンパ運動、監視活動など、関係各機関とも連携を密にして、地域から世田谷区全般へ、都へ、国

へと波及させたいと思います。何せ、一、二階所有の大家T氏が五カ年賃貸契約を済ませていたため、他地区の事情と違いがあることをご理解願いたい。また、長い戦いになると思われま



地域の皆さん

とともに

GSハイム鳥山管理組合
理事長 小俣 善紀

アレフ(元オウム真理教)信者が私たちのマンションに入居して来たのが平成十二年十二月二十日であった。夜九時過ぎに帰宅すると、マンションのロビーに段ボール箱五〇〇六〇箱が積み上げてあり、部屋へ搬入中でした。地主からは、数ヶ月前に「オウムが来ますよ」と言われたが、冗談だと思っていたところ、本当に来たので驚き、困惑しました。

オウム信者入居後は、各部屋の内装工事や外部の工事で騒音が絶えませんでした。また、マスキの取材や右翼団体の街宣車

が来たりと騒然となっていたと

このマンションの権利形態は、地主が土地を提供し、建築業者が建物を建築して十八部屋を受け取り分譲する等価交換方式のマンションです。私は昭和五十三年四月の建築当時から居住しております。駅から五分の交通至便の閑静な生活しやすいところでした。それが、今までは私たちにあまり関係のないと思われていたオウム信者が、地主持分の賃貸部分に大挙して転入し本拠地化したのですから、困惑を通り越して腹立たしい限りです。

オウム真理教からアレフへと名称を変えても、国家を転覆させようとしたり、毒ガスサリンを撒いたりする集団ですので、とても安心して一緒に生活することはできません。実際、私たちはマンション住人が五十人位で、オウム信者たちは道路を挟んだ地主所有の賃貸マンション二棟も含めて五十、六十人生活しており、私たち住人は孤立した感じで日々不安な生活を送っております。

このような状況で、とてもマンション住人だけでは闘えないということで、地元の上町町会に加入し、鳥山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会も発足させていただきました。四月三十日には大規模な反対運動で、デモ行進なども実施していただき、居住者一同たいへん心強く思っております。アレフ(オウム真理教)と地主の間では五年間の賃貸契約をし

ているとのことで、闘いは長期化すると思えますが、手を抜くことなく反対運動を継続していかないと、千歳鳥山の町が、また世田谷区がイメージダウンし、沈滞してしまいますので、アレフ(オウム真理教)を解散させ、退去させることを目指して、皆さんの力強いご支援を今後とも引き続きいただきたいと思っております。

地域の環境保全

世田谷区立中学校
PTA連合協議会
会長 矢田部政視

多極分散の複合社会にあって、改めて地域における連帯と融和が問われています。

そんな中、特殊な、というより極めて危険な元オウム真理教の信者たちが出入りするようになり、それも駅に程近い所に居を構え、しかも宗教団体アレフと名前を変えて偽装しています。あの非道なサリン事件や幾多の殺人事件を惹き起こしたオウム真理教の信者が、いまだに活動しているということ自体、鳥山周辺の地域住民にとつて脅威であり不安が募ります。ましてや幼児集団殺害事件などの思いもよらない悲惨な事件が相次ぐ社会状況に鑑み、殺人集団と言っても過言ではないオウム真理教の残党がいまだに巷を跳梁跋扈する現状は、羊の群れに獅子を放つが如くにして、危険の度を超えて戦慄に背筋が凍る思いであります。

彼らが健全な地域社会のコミュニティを著しく阻害する異分子である事は周知のとおり、地域の人たちにすれば速やかに出て行ってもらいたいと思うのが人情です。かといつて、どの町も受け入れ拒否は自明の理。さすれば、ここはひとつ教団の解散を強く働きかけるしかありません。見れば信者の大部分が若者たち。洗脳された精神をどうすれば健全な精神に引き戻すことができるのでしょうか。まさに現代は人も物も汚染されています。みんなぞ知恵を出し合い、力を併せて町の浄化に意を尽くさなくてはなりません。集団の解散を促す、いい手立てはないものでしょうか。悪逆非道の教団の後始末は、いまだ遅々として進まず、松本被告のふてぶてしさに無性に腹が立ちます。一日も早く、あのオウム真理教の悪夢を払拭したいものです。



地域の健全なる環境を願つてやまないものであります。人は環境に支配されやすいと同時に環境は人そのものともいえるのです。

協議会活動報告

- 4月21日(土) 第1回実行委員会
4月30日の学習会、抗議集会打ち合わせ
- 5月12日(土) 企画部会
4月30日の学習会、抗議集会報告と反省
- 5月19日(土) 第2回実行委員会
監視小屋対応スケジュール、住民協議会
ニュース発行について
- 6月 9日(土) 企画部会
活動の取り組みと署名、募金について
- 6月11日(月) 広報部会
住民協議会ニュース5号の内容検討
- 6月16日(土) 企画部会
第3回実行委員会議題について
- 6月23日(土) 第3回実行委員会
住民協議会規約について
これまでの経過と今後の取り組みについて
- 7月 2日(月) 広報部会
住民協議会ニュース6号の内容検討



※ 8月12日(日)に抗議集会・学習会を行う予定です。
ご協力、ご参加よろしくお願いいたします。

オウム (現アレフ) 居住状況

3 F ~ 5 F は分譲						
	206 パソコン 修理	205 音楽室	204	203	賃貸 一般居住者	201 上祐幹部
大家住居		事務所	103 30畳道場	102 30畳道場		101 60畳大道場

オウム使用

一般居住者

大家使用分

現在、50名近くの信者が生活をしているとオウム側からの報告はありましたが、この他にも一時滞在者20名、日曜日には在家信者を中心に100名近くの信者が集まるのです。「今後も増え続けることになるのでは」と不安は拭えません。

H12年12月19日に13名の信者がとても乱暴な転入をしてきて以来、常にオウム集団(現アレフ)は「人の心」を踏みにじりつつ本部化を推し進めてきました。

住民協議会は、これからも断固オウム集団に対し、解散・撤退を求めていきたいと思えます。

←鳥山駅方面

甲州街道方面→

104 被服班	103 音楽室	102 法務部	101 映像制作
204 デザイン室	203 広報部	202 機関紙編集	201 一般居住者
空部屋	303	302	301

大家物置として使用			
201 空部屋	202	203	204 空部屋
301	302	303 一般居住者	304 一般居住者

新聞販売店の協力に感謝

当紙「オウム対策住民協議会ニュース」が6月18日発行の第5号より全紙に新聞折込でお届けする事が出来るようになりました。ご協力を頂いた新聞販売店の皆様に感謝を申し上げます。

◎ご協力いただいた新聞販売店

読売新聞

鳥山サービスセンター・南鳥山サービスセンター・八幡山サービスセンター

朝日新聞

ASA鳥山中央・ASA鳥山・ASA北鳥山・ASA八幡山

毎日新聞

鳥山販売センター・八幡山販売センター

産経新聞

鳥山サービスセンター